

第1回総合計画審議会の意見集約

令和5年7月24日
総合計画審議会資料②

(*意見シート提出分含む)

総合計画全体に関すること

行政のあり方	<ul style="list-style-type: none"> ・まず、<u>行政内部が変わる必要がある</u>。部局の縦割りを壊して組織に横串を刺して取り組むべき
SDGs意識	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>SDGsの理念を重視し</u>、ローカルゴールやローカルターゲットを検討すること ・これまで企業が目指してきた労働生産性ではなく、<u>これだけの自然資源をどう有効に使っていくかという資源生産性</u>が重要

「(仮称)ミライ構想」に関すること (→資料③)

多様性・質的な豊かさ ウェルビーイング	<ul style="list-style-type: none"> ・第4期教育振興基本計画では、ウェルビーイングの向上や持続可能な社会の創り手育成が大きなテーマであり、<u>9総でもウェルビーイングや持続可能性は重要</u> ・成長という言葉は、グロース (growth (量の拡大)) ではなく<u>デベロップメント (development (質の充実))</u> を考える必要がある ・これからの<u>ウェルビーイング</u>は、<u>DO (何をやる)</u>ではなく<u>BE (どう生きるか)</u>を<u>目指す発想</u>が必要 ・<u>まちづくりの見本</u>となるような計画、<u>人のつながりを支える</u>9総であるとよい ・人生の幸福感と学歴やものを所有することはほとんど相関がなく、<u>幸福感に寄与する三つの要素は、健康、良い人間関係、自己決定</u> ・<u>ものや量を増やすのではなく、多様性や質的な豊かさを重視する</u>まちのあり方を目指すべき
地域共生	<ul style="list-style-type: none"> ・市民の幸福について、<u>地域共生社会</u>などを書き込みながらもう少し「つながり」から具体化できるとよい ・<u>健康でない方も含め</u>、幸せを感じられるような社会の在り方、つながり、人との関わりを計画に入れるべき
デジタル化	<ul style="list-style-type: none"> ・生活面、市民の暮らしのデジタル化と企業産業基盤のデジタル化はリンクしている。<u>デジタル化を進めることで「3つの変える」のうち「行動を変える」が期待できる</u> ・<u>人口減少 (規模のシュリンク)</u>の状況下において、<u>デジタルや技術革新により効率化しないと持続可能ではない</u>
ミライ構想のあり方	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>羅針盤の指す先は何か</u>。ビジョン全体か将来都市像か ・自治のあり方、<u>住民がメンバーとして関わることで自治体が成立している。関係人口を含めた魅力や関わりを計画で可視化できるとよい</u> ・<u>「暮らし楽しむまち」は適切か</u> ・将来都市像を目指すために、どんなモノや価値やシステムを作るのか、何がつながらないといけないのか、ブレイクダウンしていく思考が必要
都市構造	<ul style="list-style-type: none"> ・高齢化、独居世帯増加を見据えた公共交通網の範囲内への<u>居住の誘導</u>の必要性 ・耕作放棄地維持や森林保全のあり方

「(仮称)ミライ実現戦略2030」に関すること (→資料④)

子ども・学び合い	<ul style="list-style-type: none"> ・既成概念を壊しながら、<u>学びほぐし (アンラーン) や、学び直し (リラーン) を続ける</u>ことで、自ら既成概念から解放され、それが新しいアンラーンにつながる。<u>循環を繰り返す、周りに拡大しながらつながるイメージ</u>で9総を考えられないか
	<ul style="list-style-type: none"> ・従来の経済が発展することによって財源を確保し、教育にお金を回すという考え方から、国では、<u>教育が先行することによって人を育成し、それが経済や社会を回してい</u>き、その過程でウェルビーイングが実現するという構成が検討されている
	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>今の子ども達は、過去とは違う生活時間構造</u>をしており、<u>我々大人や社会として伝えたいことを経験できる場をどのように入れ込むか</u>が重要 ・部活動の地域移行では、<u>教育に携わる人と地域の多世代の人がつながり</u>、理想的な価値を形成することに期待 ・<u>子ども同士の関わり</u>の多様性を確保するためには、<u>一定数の規模も必要</u>。学校の維持と統合の議論は、少子化の時代に必要
地域共生	<ul style="list-style-type: none"> ・<u>地域共生社会は、支えられる立場であった人が、自分らしく地域で活躍する</u> ・行政も縦割りではなく、<u>ごちゃまぜの中で、新しい仕組みや価値を創り出す</u>、そういう発想の転換が必要 ・「<u>地域共生社会推進全国サミット</u>」におけるサミット宣言を反映しては ・<u>定住外国人と多文化共生</u>について、共助の助け合いが進む中で、国同士がつながり、支援団体とのつながりができる傾向がある
	<ul style="list-style-type: none"> ・世界の食料・エネルギー事情、地球の実情を見ても、私たちの生活のベースになる<u>生産財をいかに有効に利用できるか</u>というのが重要な視点になっていく ・環境面から<u>地球益につながる9総</u>であるべき ・意識を変えながら行動する市民をどう育成していくか ・<u>気候変動/脱炭素では、9総期間は生き残りをかけた特別な10年間</u>であり、自動車関連産業の危機感を共有すべき
環境	<ul style="list-style-type: none"> ・地域経済特性は<u>極端に自動車関連に依存</u>しており、10年間に起こる世界的自動車関連の変化の影響を大きく受ける脆弱性を有している ・豊田市は産業を取り巻く<u>グローバルな社会情勢とダイレクトにつながっている。中で循環する「つながり」の話と二層構造</u>で捉える必要がある
経済	<ul style="list-style-type: none"> ・経済的な豊かさと精神的な豊かさは相反しない。<u>経済活動を維持</u>し、次の成長につなげる力をつけることが必要